

2016 年度 グローバル人材育成推進事業 外部評価委員会 実施報告

日 時	2017 年 2 月 13 日（月）14：00～17：00
場 所	第 1 部「学生セッション」 雄飛館ラーニングコモンズ 第 2 部「外部評価セッション」（非公開）サギタリウス館会議室（S102）
参加者	109 名（外部評価委員 4 名、本学教員 24 名、学生 22 名、職員 49 名、学外 10 名）
プログラム	第 1 部「学生セッション」 事業紹介 / 学生個別発表 / 外部評価委員からのコメント 第 2 部「外部評価セッション」（非公開）

2012 年度に採択された文部科学省「グローバル人材育成推進事業（現スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援）」により、本学では、理学部、コンピュータ理工学部、総合生命科学部のグローバル・サイエンス・コース（GSC）および外国語学部英語学科イングリッシュ・キャリア専攻（ECC）の新設をはじめ、学生の学習空間の整備、教学のグローバル化、高大接続の推進、事務のグローバル化等、様々な取り組みを進めてきました。事業が本格化した 2013 年度からは、毎年 5 名の有識者を委員に迎えて外部評価委員会を実施し、本学の取り組みへの評価やアドバイスを受けています。事業最終年度の今年度は、「学生セッション」と「外部評価セッション」の 2 部構成で実施し、「学生セッション」を学内外に公開しました。

第 1 部の「学生セッション」では、大和副学長による事業紹介の後、外部評価委員や来場者に学生の成長を実感していただくため学生発表の報告会を行い、GSC と ECC の学生 21 名がそれぞれの学びの成果について、自らの言葉で発信しました。発表には、留学や語学力向上、インターンシップへの参加などの活動報告から、将来の夢、職業観、グローバル人材として生きるとはなどの考えまで、広く盛り込まれ、来場者とのディスカッションも活発に行われました。また、学修支援のために GSC が独自に開発・導入した e ポートフォリオについて、利用学生がデモンストレーションを行い、e ポートフォリオの意義についても発信しました。キャンパスのグローバル化において重要な役割を担う、事務職員のグローバル化の取組についても発表が行われました。第 2 部の「外部評価セッション」では、外部評価委員からそれぞれの視点にて本プログラムの一層の発展に向けた改善提案があり、参加した本学教職員には新たな気づきとなる有意義な委員会となりました。

外部評価委員のコメント（第一部終了時）

上杉委員（大正大学理事長特別補佐・質保証推進室長）

学生さんたちが、自信をもって、嬉しそうに、わかりやすく話していました。これが事業の成果であることがよく分かりました。また、タイの大学で語学の勉強をしてきた事務職員のみなさんは、日本に戻ってからそこで得たものに対して、継続して勉強し取組まれています。海外で得たものを積極的に活かして発信する力をつけたという点では、学生も事務職員も同じであることがわかり、大変に有意義でした。

松本委員（読売新聞東京本社社長直属教育ネットワーク事務局専門委員）

とてもいいものを見せていただきました。冒頭に大和先生が、「学生の成長が冒険か本物が見極めてほしい」とおっしゃいました。本物だと思います。相手の目を見てきちんと発表できる。これはどの方も共通していました。いまだきの学生さんでは、なかなかできないことなんです。それから、目標設定ができています。それはつまり自分が確立しているということ、とても素晴らしいことだと思います。ただし、注文があります。社会の中の私、世界の中の私、という視点を持ってください。新聞を読み、ニュースを観て、世界が激動していることを忘れないでください。

※堀江委員（一般財団法人国際教育交流フォーラム理事長）については、当日の出席がかなわなかったことから、12 月 21 日（水）に開催した学内成果報告会にご出席いただきました。

教育プログラム支援制度採択プログラム ～「経済学部生のための」初年次導入教育に向けた教材開発～

京都産業大学では、教育の質向上と教育改革の推進のため、全学的視点から重点テーマを提示して試行的な教育プログラムに支援を行う「教育プログラム支援制度」を学内公募で運用しています。この制度を活用して、学部教員がグループで初年次導入教育の教材開発に取り組まれている採択プログラムを紹介します。

本学経済学部では初年次導入教育改革に向け、1 年次生全員が受講する「入門セミナー」で使用する教材開発に取り組むべく、本支援制度を活用しています。今や、初年次導入教育はその後の専門教育との接合を意識した独自のカスタマイズが求められる段階にあります。経済学ならではの需給概念を実践的に理解するための実験経済学的手法の活用など、教員ごとのスキルを一つの教材として結集することで、さらなる教育改善を目指しています。右の写真は、ディベート経験をデータ分析能力育成へとつなげている福井ゼミの取り組みを、全国的な研究報告会である日本政策学生会議（ISFJ）の最終報告会の機会に合わせて、ヒアリング調査した際の模様です。



CERADES News Vol.10 2017 年 3 月発行
編集 / 発行 京都産業大学教育支援研究開発センター
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 Tel：(075)705-1729
e-mail：kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp URL：http://www.kyoto-su.ac.jp/about/cerades/index.html



CERADES News

京都産業大学 教育支援研究開発センターニュース

セラデス ニュース

むすんで、うみだす。
京都産業大学
KYOTO SANGYO UNIVERSITY

Vol.10
Mar. 2017



グループワークをサポートする学生ファシリテーター（2017 年度現代社会学部に入學予定の附属高校生向けスクーリングにて）

セラデスには教育支援のための様々な機能があります

京都産業大学
教育支援研究開発センター
副センター長

福井 唯嗣



昨年 10 月より、教育支援研究開発センターの副センター長を務めております、福井唯嗣です。セラデスニュース第 10 号をお届けいたします。

私自身、未だ十分には活用できていませんが（恥ずかしながら GC に入ったことがありません…）、本センターが所管する、グローバルコモンズ（GC）・ラーニングコモンズ（LC）・F 工房には、教育面での先生方のご苦勞をサポートするための様々な機能があり、それぞれ特徴を備えています。今号では、学部教育科目との連携、授業の教育効果を高めるための自習支援、学部レベルのイベントへの支援など、その活用方法について実践事例を踏まえてご紹介しています。

よりよい教育手法を探したいとき、目の前の学生に手を差し伸べたいけれど方法が見つからないとき、学部教育の改善に手助けがほしいときなど、まずはお気軽にご相談ください。

Contents

p2 学生の主体的な学びに応えるワークショップ
～授業等との連携による更なる教育成果を期待して～

- サギタリウス館グローバルコモンズ主催
英語ワークショップ
- 雄飛館ラーニングコモンズ主催
ワークショップ・シリーズ
- F 工房主催ワークショップ
ファシリテーション Labo.

p4 FD/SD 活動の推進 ー大学のさらなる進化に向けてー
2016 年度
グローバル人材育成推進事業 外部評価委員会 実施報告

教育プログラム支援制度 採択プログラム
～「経済学部生のための」初年次導入教育に向けた教材開発～

CERADES News は、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、セラデススタッフが企画・取材・デザイン制作している刊行物です。
CERADES（セラデス）は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

学生の主体的な学びに応えるワークショップ

～授業等との連携による更なる教育成果を期待して～

教育支援研究開発センターでは、日本語ライティングや英会話などのワークショップを春・秋学期ともに開催しています。これらのワークショップは、正課外活動であり、学生自らが主体的に参加していますが、一部には、学生の成長を共通の目的として授業と連携して実施している場合もあります。また、ファシリテーションの連続ワークショップを経験した学生ファシリテータが、授業やオリエンテーションなどの運営協力をしています。今回は、これらワークショップや学生ファシリテータの協力実績を紹介することで、先生方のワークショップへの理解促進を図り、正課の授業と「むすんで」、より良い成果を「うみだす」活動に発展することを期待しています。

サテライト館グローバルcommons主催 英語ワークショップ

グローバルcommonsでは、学習支援サービスの一環として英語ワークショップを開催しています。英語で簡単な自己紹介や日常会話ができるようになりたい、英語でのプレゼン発表に欠かせないポイントを知りたい、英文ライティングの基本を学びたい…と考える学生に特にお薦めしています。

2016年度 英語ワークショップ 授業連携事例

経済学部2年次生対象 集中講義科目「国際交流セミナー」

担当教員：福田 充男 教授、齊藤 健太郎 教授、西村 佳子 教授 履修者数：15名

10月に実施する海外研修の事前学習に、グローバルcommonsの学習サポートを活用したいとの依頼を受けました。担当教員と学習支援員が事前打ち合わせを行い、「海外研修に向けて学生が英語に慣れ親しみ、英語で口頭発表ができるようになる」という到達目標に沿って、ワークショップのメニューより、以下の3種類を研修の準備時期に合わせた5月～9月に実施しました。（各シリーズ：全4回を週2回同一内容にて開催）

Starting Conversations

5月～6月

日常生活における様々なテーマについて、シンプルな英単語で言いたい事を伝えられる事を目標に、質疑応答や自然な会話にするための英語表現を学び、会話の実践練習を行う。



Starting Presentations

6月～7月

英語プレゼンテーションの原稿(A4/1枚)とPowerPointを用いた発表スライド(A4/1枚)を作成し、英語プレゼンテーション発表準備において知っておくべき内容を押さえ、口頭発表練習を行う。



English Writing

7月～9月

英文ライティングの基本について、授業のレポート課題やゼミの発表原稿作成を想定し、自力で英語の文章を書く時に知っておきたい具体的な手順を学ぶ。



参加学生の声（アンケートより抜粋）

- 今まで英語学習が苦手だと思っていたのですが、少しだけ楽しいかも？って思えました。少しずつ英語が好きになれたらいいなと思っています。
- 英語が苦手なので、もう少し頑張って話せるようにしたい。バッジがもらえて嬉しかった。
- プレゼンテーションを実際にしてくれたので、どうやってするか具体的にわかった。
- プレゼンについての知識がついた。スライドの重要な点も学べた。
- スピーチ・プレゼン原稿をつくる時のアイデアをまとめるコツが勉強できて、役に立ちました。
- カテゴリーのわけ方、エッセイの書き方がわかりました。



担当教員の声（アンケートより抜粋）

- 多くの学生から英語を話そうという意欲が感じられるようになりました。「楽しい」という声も多く聞かれました。気後れして英語を話せない状況を脱して、受講生それぞれが自己紹介を準備できました。飛躍的に伸びた数名の学生は、グループの中心となって報告の構成を考えるなどの活躍を見せてくれました。
- 会話を楽しんでいたようでよかったです。とにかく、海外研修で英語でのプレゼンができたことは、学生にとって大きな一歩でした。今後は、本学で学んでいる留学生に、ワークショップに参加してもらえるといいですね。

雄飛館ラーニングcommons主催 ワークショップ・シリーズ

雄飛館ラーニングcommonsでは、大学での学びに必要なスタディスキルの習得を目的に、日本語ライティングやプレゼンテーションなどに関する正課外ワークショップを実施しています。2016年度も、6種類のワークショップを実施し、参加者への任意のアンケートでは「授業に役に立った」などのコメントから、正課外の学びが、正課の学びへと繋がっていることが分かりました。



2016年度 ワークショップ・シリーズ

いずれのプログラムも、一回完結になっており単発での受講が可能です。連続しての受講であれば、より学びが深まります。

ICTに強くなる！ プレゼンテーション

- プレゼンテーションってなんだろう？
アイデア出しのコツをつかむ
- 発表原稿作成のポイント
アウトラインの作成方法などをあさる
- 相手を説得できるプレゼンの方法
目的に応じたプレゼンテーションの方法を知る
- 効果的なスライド作成のポイント
レジュメやスライド作成時のポイントを学ぶ
- 発表練習をしよう！
最後に実証練習を行う

レポートライティング (初級)

- レポートってなんだろう？
感想文とレポート・論文の違いについて学ぶ
- レポートの基本スタイルを知ろう！
レポートの基本構造について確認する
- テーマの決め方～レポート課題を読み解こう～
課題からテーマを絞る方法について知る
- 自分の主張って？～論証～
論証の重要性について、ワークを通じて学ぶ
- 資料活用術～引用の方法～
レポートに活用できる情報の収集方法を学ぶ
- 見直しをしよう！
「見直し」のコツを、確認する

テストや評価につなげる！ レポートライティング (入門)

- トピック・センテンスを意識する
ゲームを通し、読み手に伝わる文章を書くコツと、トピック・センテンスとは何かを学ぶ。

学習の基本！ ノートテイキング

- 【入門編】講義ノートってどう書くの？
高校までの授業と大学の講義の違いを知る
- 【応用編】板書がない講義の「聞き方」
ロジカル・リスニング

参加学生の声（アンケートより抜粋）

- どのワークショップも授業の役に立ちました（『自己発見と大学生活』で作成したポスターがクラス代表に選ばれるなど）。ありがとうございました。（外国語学部1年次）
- レポートが気軽に書けそうです。先生に勧められて参加しましたが、勉強になりました。（経営学部2年次）
- ポスター制作に向けて気を付けるべき箇所を知ることができました。参考にさせていただきます。（文化学部1年次）
- 出典の書き方がよく分かりました。（外国語学部1年次）
- レポートと感想文の違いがわかりました。次も参加したいと思います。（経営学部1年次）
- 分かりやすい文章の組み立て方やプレゼンの仕方が分かりました。重要点がまとまっていて分かりやすかったです。（経営学部1年次）

F工房主催ワークショップ ファシリテーション Labo.

F工房では、「ファシリテーション」をテーマにした連続ワークショップ「ファシリテーション Labo.」を実施しています。全6回の講座を通じて、授業などにおいて学生の参加を引き出すための仕掛けづくりや技術、心がまえについて学びます。F工房では、この連続ワークショップでトレーニングを受けた学生ファシリテータを、授業などに派遣しています。

このようなことに お困りではないですか？

- 授業で受講生同士がもっと交流し合うような仕掛けを考えたい…。
- 授業にグループワークを取り入れてみたが、なかなか学生同士の話し合いが活発にならない…。
- 今行っている授業を参加型にしたい…。

学生ファシリテータがお手伝いできます！



学生ファシリテータの活動

学生ファシリテータは、学内で開催される正課の授業や課外活動など、さまざまな場面で活動しています。今年は、現代社会学部、外国語学部、文化学部、理学部、コンピュータ理工学部で開催される「新入生対象入学前・入学後オリエンテーション」の運営にも関わる予定です。その他にも、キャリア形成支援教育科目や、語学科目、初年次演習等の場面において、学生同士の関係性を深めるワークの進行や、グループワークの円滑な進行をサポートしています。学生の主体的な学びを実現するための、お力になれるかもしれません。ご関心のある方は、ぜひお気軽にお問合せください！